

若松保育園のみんなに



あか鬼・より



ぼくは若松保育園に来たあか鬼です

みんないっぱい泣いてくれたかな？

みんなとても怖がってくれたかな？

きっと、みんなは僕のことを嫌っているんだろうな？(でも、ちょっと懐かしい?)。

もう、二度と会いたくないんだろうな。(でも、ちょっとみてみたい?)

僕は僕のが好きです。

僕の仕事に、誇りを持ってるんです。

僕の仕事は、子どもたちに怖がってもらうこと。

心を恐怖でいっぱいにしてもらうこと。

子どもたちは、恐怖で心をいっぱいにしなくてはなりません。

哀しみに心をいっぱいにしなくてはなりません。

怒りで心をいっぱいにしなくてはなりません。

喜びで心をいっぱいにしなくてはなりません。

それを感じることを許されなかった子どもたちの心は、小さくしぼんでしまいます。

それを表現することを許されなかった子どもたちの心は、小さくひからびてしまいます。



「鬼は必ずやってきます。」

わかまつ保育園 園長

鬼は、毎年わかまつ保育園やってきます。

どうして鬼は来るのでしょうか。鬼さんの手紙にもありましたね。

子どもたちはたくさんの思いを経験して大きくなります。

心が豊かになることを鬼は手伝ってくれると思っています。怖いことを経験することで、楽しいことが際立ちます。

昔から、「そんなことをすると、鬼が来るよ。」という大人がいますね。これは脅かしているように聞こえますが、子どもたちに我慢することや、自分の力で気持ちを切り替え、心をコントロールすることを学ぶ機会になると思います。泣いてぐずっているお子さんに、たくさんの理由付けをしてわかってもらおうと子どもと向かい合うこともいい方法かと思いますが、時間をかけての説明は、お母さんやお父さんにさせられた感を残してしまうのではないのでしょうか。社会には、仕方ないことがたくさんあります。

周りの人に迷惑をかけてしまう時、解決が難しい時など「仕方ないよ」とおうちの人が思った時、鬼さんの力をちょっと借りて、キュッと気持ちを切り替えて次のことへむかえる心を育てていきましょう。

ですからわかまつ保育園には、毎年必ず鬼がやってきます。

鬼さんの手紙は、子どもたちにわかり易くお母さん、お父さんの言葉で伝えてくださっても素敵です。